

Q：海外と日本で使用できるくすりに違いはありますか？

A：海外で使われていても、日本では使えないくすりがあります。また海外での発売後、遅れて日本で発売されるくすりもあります。

- もう少し細かく見てみましょう
- ◆ 海外で使われているくすりが、日本では開発されず、使用できないことをドラッグロスと言います。
- ◆ 海外で使われているくすりが、日本で承認されて使えるようになるまでの時間の差のことを、ドラッグラグと言います。これは、「治験の開始時期」「治験にかかった時間」「治験結果の審査時間」が、国によって違うことから生じます。
- ◆ 例えば抗がん剤は、2016年～2020年において米国で承認されたくすりのうち、68%は2020年末時点で日本で承認されていませんでした。
- ◆ 日本の患者さんのために、できるだけ早く日本でくすりが見えるように、国と製薬企業でさまざまな活動に取り組んでいます。国と製薬企業では、くすりの審査期間の短縮や治験環境の整備に力を入れ、より良いくすりをより早く患者さんの手元に届ける努力を続けています。

参考：https://www.jpma.or.jp/about_medicine/guide/med_qa/q39.html
<https://www.jpma.or.jp/opir/news/066/03.html>